

# 琉球大学学術リポジトリ

## 研究室紹介（県農業試験場名護支場熱帯果樹研究室）

メタデータ	言語: 出版者: 沖縄農業研究会 公開日: 2009-04-21 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017183">http://hdl.handle.net/20.500.12000/0002017183</a>

## 県農業試験場名護支場熱帯果樹研究室

昭和58年、農業試験場の組織改正に伴い、果樹研究室より研究職3名、農業技術補佐職2名で体制を強化、分離独立した、設置10年にも満たない研究室である。

圃場面積は約2.4haでガラス室、ビニールハウス等の施設面積は5,000㎡程有し、試験場でも1～2を争っている。圃場にはマンゴー、パパイヤ、レイシの試験課題作物をはじめ、次期候補作目のチェリモア、グアバ、ゴレンシ等や、品種保存、新作目の導入等で20種類近くの熱帯果樹類を有している。

平成6年度、熱帯果樹研究室の試験課題

1 ハウスマンゴーの着果安定技術の確立（地域重要新技術開発・助成）

主査県、高知県（ヤマモモ）、共同県、山口県（華北系モモ）、中課題名 沖縄県（マンゴー）の3県共同試験（平成2～6年）

2 新規特産作物開発のため在来・未利用品種等の特性評価・保存、利用技術（地域重要新技術開発・助成）、中課題名「亜熱帯地域における特産果樹の高品質安定生産と商品化向上技術の開発」

主査県、沖縄県（タンカン・パパイヤ）、共同県、宮崎県、（タンカン・ゴレンシ）、鹿児島県（タンカン・パッションフルーツ）の3県共同試験（平成6～10年）

3 パパイヤの施設栽培技術の確立

4 レイシ樹体の熱帯及び亜熱帯における生態反応の解明（平成4年～7年）、台湾の鳳山試験場との共同試験

5 マンゴーの追熟システムの開発

当研究室の特徴としては他県や台湾との共同研究が多く、積極的に試験研究の広域交流を行っている。これは室長の方針であり、人を知れ、外に出ると率先して行動しているため、当研究室では年間を通して訪問客も多く賑やかである。それと開花、着果等の生態反応解明の試験や、施設利用による生産安定の試験が主になっている。マンゴー、レイシ、パパイヤ等は約300年前に導入されたが、在宅果樹としての趣味的な栽培で、最近亜熱帯地域における生理生態や、沖縄県の気象条件下での栽培法が徐々に関係機関や農家に伝わり、経済栽培の可能性が出てきたが、まだまだ調査研究の蓄積が浅く早急な解明が望まれている。

沖縄県では、ミバエの根絶や熱帯果樹類の国内需要の高級化及び多様化と、リゾート観光客の増大が見込まれることから、果樹振興計画の中で、平成12年を目標にすべての熱帯果樹類の面積拡大を、積極的に推進する方向が示された。当研究室でもこれまで以上に責任の重大さを認識し、一層研究活動に力を結集していきたいと思っている。

最後に、新聞や情報誌でマンゴ1kg 5,000円、パパイヤ1個 600円（400g程度）、作付面積は年々拡大し有望作物、と言う記事が出ると嬉しくて、妙に仕事に熱が入ったりしている。

（安 富 徳 光）